

# 得意生かし 自信育む

## 十人十色

①

子どもたちの今

子どもたちが10人いれば、それぞれ顔や名前が違うように、性格や能力にも違いがあります。友だちと競争することで伸びる子もいれば、分らないことを積極的に質問できない子、算数の計算は得意だけど文章問題や漢字が極端に苦手な子もいます。そして、集団やコミュニケーションが苦手な子、学校に行きたいけど行けない子どもたちも少なくありません。

人には誰しも得手不得手があります。得意なことを把握して、その力を勉強や運動で発揮することが、子どもの自信を育むことにつながります。そのための支援の大切さを多くの方に理解していただきたくて、この連載を始めました。

私は学校と違う場所でも、子どもたち一人ひとりの特性を理解して可能性を育てたいと思いい、「個性とニーズに合わせた自立支援」によって子どもたちの

## 可能性伸ばすヒントつづる

確かな学力と豊かな人間性の育成に貢献する」を理念に2005年、発達障害のある子らを対象にした学習塾を開きました。

それから16年。本当に多くの子どもたちや親御さんと出会い、様々な悩みをうかがってきました。親御さんに共通する願いは「将来、子どもが自分の力でたくましく生きていけるようになってほしい」というものです。そして子どもたちは「1年後は、今より少しでも自信を持てるようになっていたい」。

こうした思いに込めるためには、それぞれの特性や得意なもの、好きなことなど本人の強みを客観的に把握した上で、それを生かし、伸ばす子育てや教育

が大切です。障害の有無にかかわらず、子どもの発達状況に応じて目標を設定し「一人でできた」という達成感があれば、チャレンジする気持ちが育ってきます。

十人十色の子どもたち。一人ひとりが持つ可能性を応援できる社会を実現するために、大人が果たすべき役割とは……。みなさんと一緒に模索していかれたらと思っています。

◇ 視力が弱ければ、眼鏡をかける。それと同じように、個性や特性に応じた手助けがあり、一人ひとりが可能性を伸ばせる社会でありたい……。そんな思いから、発達障害児や不登校の子どもへの支援を続ける教育カウンセラー鈴木正樹さんが、子育てのヒントをつづります。原則、隔週水曜日に掲載します。



アットスクールの就労体験として、地域の祭りにたこせんの屋台を出し、スタッフと共に笑顔を見せる子どもたち（2019年）



鈴木正樹 私立高講師や商社勤務を経て、現在は学習塾「アットスクール」（草津市）

を運営。相談や講演、指導者養成研修などを行っている。特別支援教育士、教育カウンセラー。京都女子大発達教育学部で非常勤講師も務める。